

# 幼稚園と子どもの生活



## お茶の水女子大学附属幼稚園

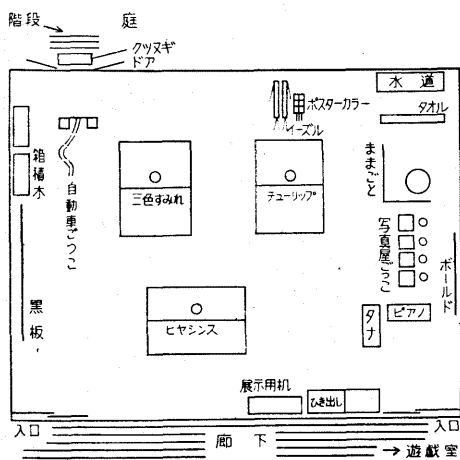
幼稚園は、どの子どもも自分のありのままの生活ができる  
ところでありたいと思います。一月号には幼稚園の五才児の  
一日の生活の記録を載せて好評を得ましたので、今度は四才  
児の記録をのせることにしました。立体的に展開する幼稚園  
の生活を、平面上に文字で記すことは困難ですが、ていねい  
にやんできただけは、幼稚園の一日の生活の輪郭をみていた  
だくことができると思います。またその中で先生がどのよう  
に動いているかを注意してみてください。

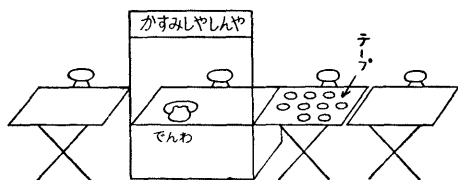
二月二日(金)

◇九・二〇△保育室▽登園したての様子

登園している子は男児五人、女児三人。先生はボールドに鬼の面  
をとめている。二〜三人の子がそれを見ている。他はポスターカラ  
ーで絵をかく子、クレヨンで自由画、黒板にチョークでかく子。  
「かすみしゃしんや」と看板のあがっている台にA男が種々の色  
の紙テープを並べ始める。

先生「カラーフィルム？ これねカラーフィルムじゃないのよ」と  
先生の後へついて来るA子に笑ってみせる。  
先生「B子ちゃん」とぼんやり立っている女児にほほ笑みかける。





B子笑ってひき出しをあげる。C子「B子ちゃん」と頭へ手をおく。B子自由画をかいているD子の所へ見に行く。D子は笑って手をB子の顔の方へのばす。

#### ◇九・二五

三つのグループに机が並べてあり、各々に三色すみれ、チューリップ、水栽培のヒヤシンスが飾られている。先生自由画を描いているD子に、ヒヤシンスを指しながら、「D子ちゃん、D子ちゃん二つ咲いている。明日になったらもう一つ咲くのよ」

B子「D子ちゃん、さかだちよ」(自由画帖のこと)

D子「あら、そうお」

B子「わたし何かこうかしら……。まねしようかな」

先生「お早うございます」と登壇した子の頭へ手をおく。庭へ出られるドアをあげる。

保育室の右側ではE子・F子がままごことを始める。ままごて用の小さい丸いおせんの上へ、まないたをおいている。「おくつしたはかせよう」と二人で人形に靴下をはかせる。

しゃしんやの看板のところへC男が座ろうとすると、テーブルを並べていたB男

「ここだめ、ここ隊長の場所だよ、おいすもって来てすわれよ」と、横の場所を示す。C男はだまっていすを取りに行き、示された場所へすわる。

先生・母親と話し、高窓をあげる。

#### ◇九・三〇

ままごと女児3、写真屋男児3、自由画女児5人。

#### ○写真やっこ

先生「こんにちは、今二人でいますからカラーしゃしんとして下さい」とA子の手をとって写真屋の前へ行き、こしかける。

A男「ここみなさい」と看板を指さす。

先生「おわり、やすみ」と看板のところにかかれた文字をよむ。

B男「ちょっと、おやすみです」

先生「せっかく来たからとって下さい」

B男「おやすみ」

先生「じゃちょっとお使いに行つて来ますからとっておいて下さい」とA子を残して行くが、A子は教師の後をついて行く。

C男「おい、カラー写真だって」と紙を切りながら言う。写真屋の前を通ろうとするD男に

C男「写真屋でござい」

D男「おやすみです」とよむ。E男やって来て「おやすみ、しゃしんや、やがへんだな、みはいいけど」

D男「おわりだつてとるの」

A男「とるよ」とおやすみとかいた紙をはずす。

#### ◇九・三五

先生「できましたか」

B男 紙を渡す。

先生「あら、二人でいたのに誰も写っていないの?」といいながらタオルの方へ行く。

B男「おい、写真屋だぞここ」と通る子に言う。F男いすを持って来てすわり、写真屋に加わる。A男でんわをもう一つ持って来て並べる。

ままごと4、自由画6、黒板にはった写真を見る子2、プラスチックの組合せをしている子4、ぶらぶらしている子2 計18人

### ○自由画

「わはっはっはっはっ」と笑う。先生みる。

B子「これと、これと違うの」とC子の絵と自分の絵をみせる。

先生「そうね ちよっとにているわね」

D子「B子ちゃんたちの方が上手ね」

C子「みんなの方がお上手ね。わたしこんななの」

### ○写真屋ごっこ

男児「テープやー、テープやー」

B男「テープやじゃない、写真屋だよ」

三人立ってみている。四人が写真屋やにすわっており、各々紙を切ったり、紙にかいたりしている。

B男「カラー？」とみている女児にきく。女児こっくりする。

B男「おいカラーだぞ、何色？」

女児「大きいのがいい」と水色のテープを指す。

B男「これ？」 女児こっくり。B男そのテープをとってA男に渡す。A男は紙を切る。

A男「カラー？ 色？ どちらですか」

B男「カラー。大き目？ 小さ目？」と女児に。

女児「大き目」

立って見ている二人の子に

C男「写真や、何もかいてないですけど」

先生 水色のセロファンをH男に渡す。H男写真機をつくっている。

先生写真屋へ来て「ちよっとセロテープ貸して下さい。またもって来ます。」B男は先生に紙に、色鉛筆でかいた写真を渡す。

先生「あら、二人いたから二人写っている。これおいくら？」

B男「二五〇円」

先生「あら」

### ◇九・四〇

先生H男の写真機の箱に穴をあけてあげる。

自由画の女児「先生、

これいいでしょう」先生、

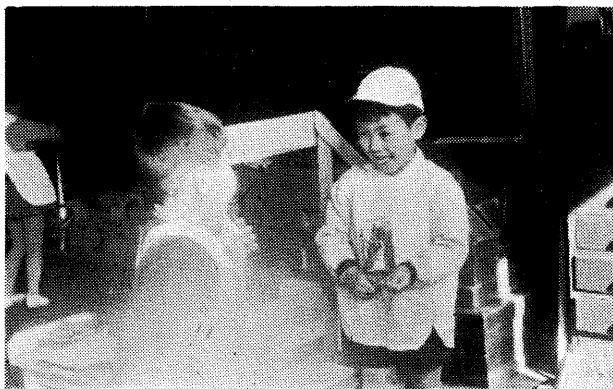
生みて笑う。鬼の面の破れたところをはる。

H男箱を持って「これでいいでしょう」先生

うなずく。先生「B子ちゃんちよっとクレヨン貸してね」B子こっ

くり。

先生は保育室でなわとびしている女児に「とべるのあなた？」と



ききながら写真屋へ行き、「カラー写真のお代と、上手に遊んでい  
るごほうびに五百円差し上げます」

B男「はい」と受け取り、にっこり笑う。

A男、二、三人みに来た子に「行け、行け」といい、外の方をみな  
がら「やーめた、やーめた」他の三人も「やーめた、やーめた」と  
散りかけたが、大急ぎでかたづけだす。

#### ◇九・四五

外で写真屋の子たちをいっしょうけんめい呼んでいる。

I男「お前、ワンワンドッグ忘れたらだめだぞ」

G子「だって〇ちゃんまだ来てないんですもの」

子どもの家（庭にあり、畳のへや、ちがいの棚、子ども用藤いす、ま  
まごと道具、オルガンなどがある）へ写真やごっこをしていた男児  
たちがとんで行く。

#### △子どもの家▽

J男「おい二階だぞ」とちがいの棚の上にねころぶ。

B男「おいだめだぞ。隊長がねるんだぞ」とI男をひきずりおろ  
す。

C男「お医者だつてねる時あるぞ。夜になれば」といいつつ、皆で  
テーブルを出したり、椅子を並べたりする。その後子どもたちは、  
ぬいぐるみの人形を投げ合ったり、ワンワンといいながらとつとつみ  
合ったり、ねころんだり、家庭にいるようなまとまりのないあそび  
をしている。

#### ◇九・五〇

#### △保育室▽

先生は鬼の面をボールドにとめている。

三人の女兒「お外へ行こう」と縄とびひもをもって外へ出る。自  
由画をかいていたB子「あした節分だっけ」

先生「そう」

B子「あ、そうだ」

自由画3、ままごと2、

小自動車であそぶ4、こまをつくっている2、

子どもの家10、外8人

#### ○乗り物ごっこ

保育室の左側で男児三人、女兒一人小さい自動車で遊んでいる。

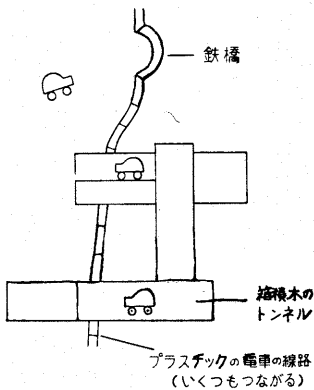
K男「ここ池袋」

L男「ここ大塚」

M男「ここ車庫」「どこへでも行けるのかいいなあ。これいいだ  
ろ」

M男が積木を並べようとするとK男「だめだよ」と積木をうばい  
とり、「ここ池袋だもの  
なあ」と言う。K男はL男  
にも自由に積木をおかせ  
ない。二人とも「Kちゃ  
んここへおいでいい」と  
ききながらおく。

K男「あと荻窪」「ここ  
道にしようか」と鉄橋を  
おく。M男は自動車をあ



ちこち走らせてみる。男児三人加わる。

先生、母親と話をしている。

#### ◇九・五五

K男「ここへ来てもいいよ」と鉄橋をおす。

L男「ここまで」ととめる。

M男「おれがそんなにいうことないよ」とふしをつけてくり返しながら行ったり来たりする。

K男「なんだ、つまらないな、せっかく……」

L男「いいよ、くらいもん」

K男「くらくてもいいじゃないか」

L男「そんなことない」

K男「ああ、いいものできたLちゃん通れるよ。おもしろいじゃないここ。下みてごらん」と箱積木の下へ線路を並べたのをのぞきこむ。L男ものぞく。

L男「電車来ないかな」

N男「箱積木の上を歩く」

K男「あれ、こわれちゃった」

L男「ふみきりにしない？　ここ」といいながら車庫をつくる。

#### ◇一〇・〇〇

先生母と話。

#### 〇保育室の他の子どもの様子

写真屋の電話の前で一人バンチで穴をあけている。ままごとをしている二人、一人は人形をおぶっている。一人はその人形に靴下をはかせている。買物かごを持って「行きましょ」と出かける。

三人の女兒が画用紙で黙々としてこまをつくっている。できてまわしてみた子が先生に「まわらない」と言う。先生母親と話しながら、こまをとってみる。

一人の男児が、箱にセロファンをはって写真機をつくっている。

#### △庭▽

四人なわとびをしていたが、「あせびつしより」「わたしもよ」「子どものおうちあいてないかしら」「こどものおうちあいてなかったらブランコしよう」と四人走ってみに行く。「あいていない、あいていない」とブランコの方へ走って行く。

#### △子どもの家▽

十人の子どもがいる。

A男「罰金千円もらうよ。先生に誰かいう人手をあげて」

C男「手をあげる」。

A男「お前だめだめ。お前こわしたな」ついたての板がとれている。誰が先生にいいに行くかい合っているが、A男「やんなっちゃうな」といいつつ二三人の子と先生の所へ走って行く。

#### △保育室▽

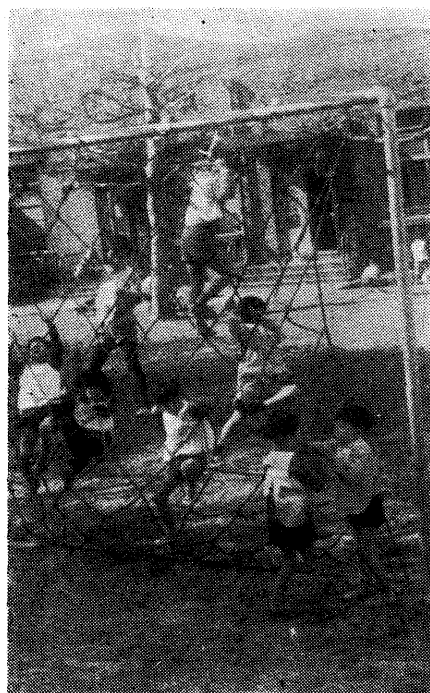
先生「ああ、あそこ、こわれているのよ」といって、再び母親と話。

#### ◇一〇・〇五

ブランコして来た女兒「おえかきしようかな」と入って来るが、遊戯室へスキップをしながら行く。

#### △遊戯室▽

スカイジムへのぼる。



○「こわいからやめた」

○「ちょっとおりてごらん」

○「そこおりの簡単よ」

○「おりたことないもの」

○「そうよないけどさ、簡単よ。おりればいいでしょ」

○「わたしこれ簡単よ」

○「わたし、これでもできるわよ、これでもできるわよ」

と三人の女兒が、スカイジムからとびおりたり、板をつたわったりし合って自慢合っている。

◇一〇・一〇

△保育室▽

○片づけ

自動車ごっこが終わり、皆で片づけ始めている。

セロファンをはって写真機をつくった男児、パチ、パチといいながら、片づけている様子や、ままごとの有様を写真にとるまねをしている。

遊戯室にいた三人の女兒入って来て「おえかき」と机の前にすわる。

先生「○ちゃん お当番さんよんで」

「川の組おゆうぎ、川の組おゆうぎ」と、お当番を呼びに行った子が叫ぶ。皆、中へ入って来る。

先生、母と話。

「わたしおすわりして待っていよう」と一人の女兒席にすわる。

ままごとも片づけた。お遊戯室よ、お遊戯室よと入って来る子

五人、席にすわる。

◇一〇・一五

○一同が席につく

遊戯室へとんで行った子も皆もどってすわる。

先生「Pちゃんは、Pちゃんは、お当番さんしません」当番がPを、遊戯室へよびに行く。P男遊戯室からもどる。

先生「あとで先生といってもわからないわよ。しまわないと……。Pちゃんここへ入れて」と箱を示す。

先生「あのね今日ずいぶんお休みね」と黒板に書いてあるお休みの名前を指す。

「七人だもの」

「八人だもの」



「七人じゃないよね、Ｙちゃんお休みだもの」といい合う。

先生「ここにお休みしている人皆お風邪なの」

○「一番上の〇ちゃんお風邪じゃない」

先生「でも静岡でお風邪かもしれない」

○「そうだね」

風邪の時の注意を少し話し合う。

先生「じゃお遊戯室へね」

という子どもたちきつと、保育室の入口の所へ並ぶ。

先生「おしまいの方しめて下さい」(保育室のドアのこと)といって歩きだす。

子どもたち「発車」といながらスキップをして遊戯室の方へ行く。二三人の子ども、黒板へちょっとかいてみては歩きだす。

◇一〇・二五

△遊戯室△

先生、男女児一人ずつ選び、ピアノの前にすわる。

前へ出て来た二人の子に「よくやってあげてね」と

いい、皆に「さあ、お歌うたってあげてね」という。子どもたちは広い遊戯室のピアノの近くに横へ一列にすわっている。子どもたちはピアノに合わせて写真の歌をうたう。かわいかわいうつしてねね、にっこりにっこりわらうから……」前へ出て来た二人は歌に合わせて写真をとるまねをする。写真をとった二人は次の二人を選び、次々に選んでいく。三回くりかえす。時々写真を写し終る時「いいだ」と手を出したりする子がある。

先生「じゃ先生、飛行機しているとき写しちゃおうかな」

子どもたちきつと立って、「丸くなれ、丸くなれ」と輪をつくるが、ふざけている子が数人ある。

先生「遊園地の飛行機早く仕度しないと、子どもが乗れないわよ」

皆ピンとする。ピアノに合わせて、両手をピンと横にはって、うたいながら輪に飛ぶ。(曲が遊園地の飛行機の間は輪をくずさない)曲が変わって本物の飛行機の部分へ来ると、うれしそうに、遊戯室を縦横に飛びまわる。写真の歌の時から時々立って、ひょこひょこ歩いたり、ねころんだりしていた男児、ピアノにぶらさがる。先生が「〇ちゃん、〇ちゃん」というと、すぐ飛んで行く。ブルブルブルとピアノで飛行機がとまるところをひく。とまって頭を床につけている子数人、大部分手でプロペラのまわる表現をしている。ピアノに合わせてとまる。先生「Ｈちゃんのとこ、プロペラよくできていたわね。ここへまあるく……と先生が手をお頭の上でまわすと男児「ヘリコプター、ヘリコプター」

先生「ここにしゃがんでいるのよ」

子どもたち二三人のグループになって肩へ手をのせてつながる。

前の子が手をまわし、後の子は前の子につかまって走る。早く走ってバラバラになったり、ころんだりしながら精一杯走りまわる。ピアノとまる。

#### ◇一〇・三〇

先生「お休みしましょう。よく休んでいるヘリコプターはこの次よく飛べます」。子どもたち床にねころんだり、すわって両手を合わせて耳へやり、ねる表現をしたりする。二～三人走りまわる。「夢だよ夢だよ」と数人とびまわる。ピアノ静かにひく。先生「はい油が一杯になりましたからとんで下さい」

#### ◇一〇・三五

たいへんうれしそうに飛びまわり、また休む。皆が床にねころび、次は両足をあげて立ったり、足をあげないで立ったり、ピアノに合わせて。次にピアノに合わせて自由に歩く。四拍子で、一拍目を強くひくと、子どもたちは強く歩く。

#### ◇一〇・四〇

男児、女児別々に歩いたりする。女児が歩いている時、男児十人まるくかたまつて「アッチ、アッチ」とひばちにあたるまねをしている。男児の番になると女児がまねをする。「ひばちにあたっているような弱虫さんお山へのぼれるかしら」と先生。女児も立ちあがり、山登りの表現をする。

先生「じゃ今度はこのくらい高い山よ」と手で表現。次々に「このくらい高い山よ」「こんどはこんな高い山よ、おふとも、食べ物ももって」と言う子どもたちは高さにより違う表現をする。「帰りはスキーで帰りますよ」ふざけている子がいるので、ピアノをち

よっと中止して「のぼる時、よくのぼらないと、よくすべらないのよ」と注意、子どもたちちゃんとやり直す。

#### ◇一〇・四五

スキーの表現、皆うれしそうにする。ただ走っている子もいる。

先生「こんどはもうスキーもぬいで、六人ずつスキップね、次々と六人、五人と出て来て広いホールを縦横にスキップする。曲がフォークダンスの曲になると、二人ずつくんでダンスをする。五人が出て来た時は、一人はんばになる。先生が「三人ですれば」というと、次からは二人、三人のグループでおどる。

#### ◇一〇・五〇

途中で曲にあわずばらばらになる。

先生「今は飛行機じゃないのよ。だからピアノの音をよく聞いてね」子どもたちちゃんと合わせてやる。一通りすむ。

先生「今度はお外で遊ばなかったから、お外で遊びましょう。並んで。とび出さないでね」。一列に並んで外へ出る。

#### ◇一〇・五五

△庭▽

先生、保育室でマリをつく子を「外でつかない」ときそつて外へ出る。なわとびをしている子に「〇ちゃん」とそのなわに一しょに入つてとぶ。次に先生がなわをもつてとび、子どもがそれに入る。

B子・C子・D子「先生、A男ちゃん、こどものおうちへ入れてくれないんだって」

先生「みんなできてみて」

先生「あなたお靴はく時、はだしにならないでね、この靴の上にぬ



いで」とH男に。

先生「H男ちゃんのトンネルから汽車ポッポが出て来たの知ってる」

H男「知らない。ぼくやってなかったもの」

先生「お顔のトンネルよ」

H男「お顔の」といいながら靴をはく。(鼻が二本出ている)

外でままごと2、縄とび3、大きい自動車に乗る1、そのそばに2、

ごさを敷いている子2、あとは皆子どもの家

自動車に乗っているR男に「おしたげようか」と二人の男児が自動車をおす。

◇一一・〇〇

△子どもの家▽

皆一列に並んで入口のところにすわっている。

先生「ごめん下さい」と戸をあける。

子どもたちいっせいにワンワンワンと勢よくほえる。

先生「ワッハハハ……こんな寒いところにいると病気になるわよ」ピンを高くあげながら

A男「大丈夫だよ、これがあるから」(葉の意味らしい)

先生「ちょっとこんなに大勢の中で、一匹ぐらい丈夫なワンワンはいないものですかね」

B男「はい」と手をあげる。

先生「ああ、元気なワンワン出て来た。元気なワンワンと競走しようかな」

△庭▽

○おにごっこ

皆犬の競走、犬の競走と叫びながら外へとび出す。十人の子どもたち「ワンワンワン」といいながらジャンケン、先生も共にジャンケンし木おにが始まる。先生がF男に「ワンワン」と手をたたくとF男「ぼく人間の組だもの」

先生「あなた人間」

◇一一・〇五

〇ままごと

三人ごぎを敷いてままごと。

E子「わたしおかあさんよ」

F子「わたし一番上のおねえさんだから持って来てあげるわ」と石をひろいに行く。G子だまってすわっている。

先生はおにごっこ。

◇一一・一〇

バドミントンのバットで二人の女兒まりをついている。

ままごとが二人になる。F子人形をねかせ、おせんの上へコップなどをならべている。ざぶとんの上へすわり「おいしいのつくってあげるわね」と小積木をお皿へもる。

F子「おいちご赤ちゃんにあげましょうね」

E子「バナナジュースは」人形すわらせつつ。

F子「わたしたちはバナナジュースよ」

E子「ねえ、ああいいう石とって来て」

F子「赤ちゃんどうしようか。すわらせてもころぶの」

E子「赤ちゃんわたしが食べさせるから」F子が立たないので、E子は自分でひろいに行く。

◇一一・一五

先生が歩いて来る。

E子「先生」とよぶ。

先生「ごめん下さい」とごぎの上へすわる。

E子「これミルク」。先生は飲むまねをし、バナナをむくまねをして食べる。

E子「みかんむいてあげました」

先生「あら、柿じゃない」

E子「ああ柿だ。ほうちようもって来なかったっけ」とさがし、保育室へとりに行く。

先生「ああ自家用車が来た来た(自動車にのった子が通る)。あ、魔法のおじいさん、魔法でごちそう出して下さい」(棒をもってそばを通る子に。だまって通り過ぎる)。

E子「さあ、むきますから」(ほうちようをもち、柿をくるくるまわす)。

先生「あら上手ね」

E子「はいむきました。このはっぱのとこ残さなきゃ。はい、もう一つ」

J子「今日は」

先生「いらっしやいませ」

F子「お砂糖入れてあげましょう」

先生「お砂糖のかたまり(入れての意)」笑いながら。

F子「これ角砂糖」

先生「あ、そう」

B子・C子・D子が石段の上からみている。

先生「そっちは何屋さん」

B子「何もない。休む所」

先生「では休ませていただきます」

C子・D子 「どうぞ、  
ゆっくり、ゆっくり」  
先生 「どうも、ちそう  
さまでした。玄関か  
ら」といいながら靴を  
はき、B子たちの所へ  
行く。

#### ○休む所

先生 「ごめん下さい。  
お玄関どこ」

B子 「こっち、こっ  
ち」保育室の石段に「こ  
ざが敷いてある。先生  
言われた所で靴をぬい  
で階段のござの上にす  
わる。

先生 「ここ、二階」

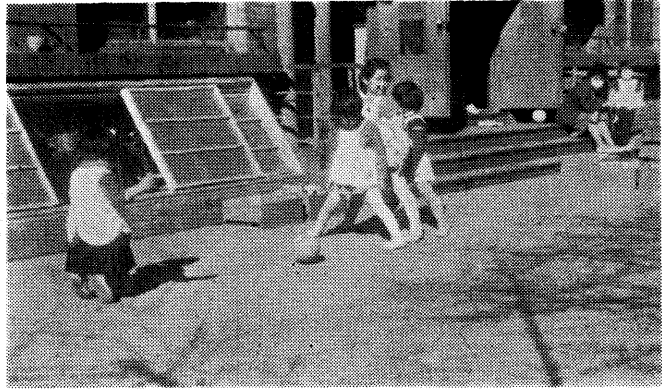
C子 「ここ、屋上」

ままごとをしていたE子、人形をだき、ごちそうをもって来る。  
先生 「あ、何か持って来て下さいましたよ」

E子 「これ、おむすびですよ」とD子に渡し、「ただいま」とF子  
の所へ帰る。D子 「どうもありがとう」とE子の所へ返しに行く。

I男 「先生、ばく入れてといっても入れてくれないんだよ」

先生 「まあ、なぜでしょう」。I男行く。



ままごとの家にも、お休み所にも、各々保育室から電話を持って  
来ておく。

B子が受話器を取り上げると、E子みていてすぐ受話器をもつ。

B子 「もしもし、となりのおねえさんですか」

E子 「はいはい」

B子 「あのお……きのおはどうもありがとう」

E子 「こっちこそ」

B子 「じゃ、さようなら」

E子 「さようなら」

#### ◇一・二五

#### △保育室▽

先生 そつと保育室へ入り弁当の準備。

M男 「先生〇ちゃんへリコプターで鉄砲つくっているの」と入って  
来る。

先生 「そうお」

#### △庭▽

ままごと、休む所をしている他の子は、ブランコ、おにごっこ、  
なわとび、すべり台、山の上で走りまわる。

#### ○休む所

C子 「もしもし」三人がそばで言うことを教える。

E子 「はいはい」

C子 「お客様が来たから、何か持って来て下さい」

E子 「いや」

C子 「わたしが買いに行くわ」と立ち上がる。

B子「ここわたしの部屋よ」

D子「ここわたしよ」と階段を一段ずつ決める。

B子「時々遊びに行くのよこうやって」と階段をおりてみせ、あな  
たたちはこうやってと階段をあがってみせ、「リーとベル押すの  
よ」

D子「わたしやってみよう」とやってみる。リー。

C子「どうぞ」。上の段に三人すわる。

B子「わたし遊びに行つて来るわ。ここ開かないの」

D子「ひらけーごまというと開くわよ」

#### ◇一・三五

#### △保育室V

二人の男児絵をかきだす。

二人の女児がのぞき「あらどうしたのでしょうか。あそこ三人」と三  
ついの並んでいるのを指して言う。絵をかいていた子やめて「先  
生お弁当にしているの？」。先生うなずく。「川の組お弁当とう」とふ  
しをつけて叫ぶ。だんだん叫ぶ子がふえ、あちこちからとんで来る。

## 保育者の立場



#### ○最近感じていたこと

最近あそびに発展性がないことを感じていました。皆がただワ

ーと集まって、別に目的もなくさわいで、ワマーと去ってしまうよ  
うなのです。そしてなんとなく私の目を避けている感じなのです。

それで困ったことだなと考えている時、三才児が写真機をつくつて  
遊んでいたのですが、誰かが遊戲室へ忘れて行ったのです。それ  
を私のクラスの子どもがひろつて来てしばらく遊んで返してあげま  
した。おもしろそうに遊んでいたの、私は、皆が写真機をつくつ  
て「写真やごっこ」ができたらと思いました。それで「ぼくたちも  
写真機つくつたら」とちよつと言うと「三才の子ができたから、ぼ  
くたちにできないはずないな」などと言いがらつくり始めまし  
た。発展させたいという意図があったので、むつかしいところを手  
伝いました。店屋のワクをおいて、「しゃしんや」と書いておきまし  
た。子どもたちはすぐ私の書いた看板を破ってしまつて「かすみし  
ゃしんや」などと自分たちの字で書き、その横へ「ちよつとおやす  
みです」とか「おやすみ」とか書いたりし楽しく遊び始めました。  
それから、やたらにダーと走りまわることが止まりました。それま  
で、玄関、テレビ室、山の上、子どもの家など私の目のとどかない  
所で遊んでいたのが、保育室で遊ぶことが多くなり、私のそばにい  
ることが多いので、私の意図が伝わりやすく、遊びが変わってきま  
した。写真屋はどんな発展し、種々な色の紙テープをカラーフィ  
ルムにしたり、写真をとりに行くと写真に写ったところをかいてく  
れたりしました。私には何か写真屋ごつこの経験を通して、遊び全  
体がおもしろく、発展性のあるものになってきたように思えます。

#### ○このクラスの子どもの特徴

このクラスはグループがたいへん早くでき、しかも大きいので